

会議録

会議の名称	第6回西東京市廃棄物減量等推進審議会
開催日時	平成23年12月22日（木曜日） 10時00分から11時25分まで
開催場所	インゲビル3階 第1・2会議室
出席者	審議会委員：山谷会長、一方井副会長、紺野委員、下田委員、三澤委員、石井委員、笠原委員、本橋委員、内藤委員、利光委員、高橋委員、鹿島委員、小林委員、竹村委員（全14名） 事務局：坂口市長、金谷部長、坂本課長、岡本係長、都築主査、小暮主任、高橋係長
議題	(1) 一般廃棄物処理基本計画について 答申 (2) その他
会議資料の名称	資料1 第5回西東京市廃棄物減量等推進審議会会議録 資料2 西東京市廃棄物行政に関する施策について（答申）
記録方法	<input type="checkbox"/> 全文記録 <input checked="" type="checkbox"/> 発言者の発言内容ごとの要点記録 <input type="checkbox"/> 会議内容の要点記録
会議内容	
<p>会議録の確認 第5回会議録の承認及び公開の承認</p> <p>事務局より、配布資料の説明</p> <p>○山谷会長： 答申について、意見があればお願いしたい。 「ごみを出さない」という表現を「できる限りごみを出さない」という表現に変えていただきたい。</p> <p>○事務局： 了解した。</p> <p>○山谷会長： 平成23年7月に市長より諮問された「一般廃棄物処理基本計画について」本日、答申を行う。提言の概要として、次のとおり要望する。</p> <p>1. ごみを減量するための施策 1. 可燃ごみ中の生ごみの水分を排除するための施策、紙類の混入の分別・資源化、</p>	

生ごみの堆肥化、剪定枝等の資源化等、可燃ごみ減量を行うための施策の検討・実施を要望する。

2. プラスチック容器包装類の分別徹底と混入除去を実施し、硬質プラスチックの資源化を推進することにより、不燃ごみの減量を行うことを要望する。

3. ごみの分別と減量について市民に周知するため、出前講座、市民まつり、環境フェスティバル等を活用して啓発活動を行い、市報、エコ羅針盤、ホームページ等を媒体として、ごみの減量・資源化についての情報発信することを要望する。

2. ごみの排出抑制

有料化、戸別収集、プラスチック容器包装類等の分別収集の実施により、格段にごみは減量化されているが、さらに排出抑制・資源化の推進を図るよう要望する。

3. ごみの資源化の推進

資源化を推進するためには、集団回収活動の活性化、資源物の分別徹底が必要であり、さらに、紙類、生ごみ、プラスチック容器包装類以外のプラスチック類等の分別徹底と資源化の検討も必要である。また、資源物の持ち去り対策を強化するよう要望する。

4. 収集・運搬

集合住宅対策として、フック方式等による戸別排出の普及、排出抑制、分別の徹底を図るよう要望する。

以上が答申の概要であるが、市長の感想等があればお願いしたい。

○市長：

委員の皆様には、7月に諮問して以来短い期間であったが、このような答申を出してもらい、感謝申し上げます。西東京市では、有料化と市民の方々の理解と協力により、当初の目標を大きく上回り、全国的にみても1人1日あたりのごみの排出量が最小クラスの自治体となったが、昨年度からその削減幅が鈍化してきていることも事実である。市内にごみの中間処理施設や最終処分場を持たない西東京市は、常に他の自治体以上にごみの減量と資源化の努力をしていかなければならない。今後もさらなるごみの減量と資源化を進めていくためには、市民、事業者、行政が協働しながら、それぞれの役割を果たしていくことが重要と考えている。この答申をもとに、今後10年間の廃棄物処理施策の指針となる一般廃棄物処理基本計画を本年度中に策定したいと思うので、引き続き理解と協力をお願いします。

また、東日本大震災の瓦礫の受け入れについても柳泉園管内の3市の住民の方々にも理解をしてもらい、積極的に焼却処理を進めたいと考えている。

○山谷会長：

市長からの感想について感謝する。では、各委員の感想・意見を順次お願いします。

○一方井副会長：

東日本大震災の瓦礫の受け入れについて、西東京市はどうか心配をしていたが、市長の発言があったので安心をした。

○竹村委員：

興味があって参加させてもらったが、この審議会で得たものをこれからの活動に活かしていきたい。

○小林委員：

西東京市に引っ越してきて、この審議会に参加させていただいてから、ごみを意識するようになり、生ごみを以前は、ちょっとだけ絞って出していたが、今では、カラカラになるまで干してからごみに出すようになり、よい経験となった。

○鹿島委員：

ごみがどのように処分され、リバウンドがどういうことかよくわからなかったが、処理現場を見学したことにより、最終処分場ではエコセメントとしてレンガ等に製品化されていた。地域のごみの出し方など、集合住宅ではごみ袋に住居番号を書くことによって意識の向上を図っている。また軽量化を促進させる水切りの重要性を広めたい。

○高橋委員：

ごみ問題を一言でいうと、ごみを制する者は行政を制するというのではないか。地域社会を今一度よく考えてみる必要があると思う。

○利光委員：

ごみの廃棄に関する意識が高くなった。意識が高くない人も、それならできるかもしれない、やってみようと思えるような、日常生活におけるちょっとした工夫についての出前講座をやっていただきたい。

○事務局：

コンポストの講座を3月に実施する予定である。その時に、コンポストのことだけでなく、生ごみ、可燃ごみ等を減らす工夫をアドバイスしていきたい。市民のみなさんに気軽に取り組んでいただける減量方法を伝えていきたい。

○内藤委員：

事業者の立場から出席させていただいたが、食品リサイクル法、容器リサイクル法に基づき事業展開をしている。食品スーパーとしては、今後トレイの店頭回収を進めていきたい。また、環境講座のセミナーを行ったが、環境問題、IT情報通信が今後のファクターとなるのではないかと考えているので、本審議会でも得られたことを参考にしていきたい。

○本橋委員：

まず驚いたのは、ごみの処理にこんなにお金がかかっているということ。また、世の中では、「もったいない」という言葉が流行っている一方、捨てる整理術も流行っており、両極端に思える。ごみや社会について考えさせられた。

○笠原委員：

市民に対するごみ対策はできていると思うが、事業者に対するごみ対策はできていない。ごみも多く捨てられているので、マナー問題の啓蒙活動を行ってほしい。事業者の方には資源物が多く眠っているので、その対策も考えて欲しい。

○石井委員：

審議会ではごみを減量するための議論を主にしてきたが、発生抑制なくしてごみ減量はあり得ない。出さないための具体的方法を議論した方がよいと考える。

○三澤委員：

前日も目標値を設定したが、達成率が高かった。今回の目標値は、できるだけ市民に無理をさせずに、持続可能なごみ処理ができるようにしていかなければならない。東京都内でも施策等に優れている市を見習ってごみ処理事業を行ってほしい。

○下田委員：

可燃ごみの水切りがされていないことが多いと現場からの声がある。処理場で水抜きをすることが多いので、可燃ごみの水切りをするよう市民に徹底していけば、ごみの減量につながると思う。

○紺野委員：

資源回収の業者として参加した。集団回収をもっと強めていったらどうか。資源回収には、民間で販売店回収、拠点回収、行政がやる行政回収がある。民間回収は相場によってかなり影響をうけるため、行政回収も必要がある。また、分別して出してもらった資源物を持ち去られることは、市民の財産を取られることであり、リサイクル率を落ちてくることになるので、コスト面も含めて配慮してほしい。

○山谷会長：

各委員からの感想、意見等について、何かあればお願いしたい。

○市長：

ごみの問題とは、グローバルな問題、世界的でありながら、足元から実践していかなければならない。まさに人類が直面している大きな課題の一つであるといえる。これにどう向きあって、日々の生活の中でどのような実践をしていくかが、実は、西東京市の課題であるとともに市民一人一人が取り組んでいかなければならない課題であると思う。

某ハウスメーカーでは、ゼロエミッションハウスという家を造っている。

また、具体的な取り組みとしては、バイオ液を使用した生ごみの分解を実践をしている。

必要に迫られてごみの減量に取り組むわけだが、ごみというものを一つの媒体として、地域コミュニティの再生、絆の再生に大いに役立たせられると考えている。

○山谷会長：

市長からの貴重な意見に感謝する。事務局から何か発言があるか。

○事務局：

今後の予定であるが、2月1日から14日までパブリックコメントを市報及びホームページ等で行い、これに基づき意見をいただき、一般廃棄物処理基本計画を本年度中に策定する。策定できたら委員の皆さんにも配布する予定である。新年度に施策等の報告も兼ねて審議会を開催したいと考えている。

○山谷会長：

第6回の会議録については、出来次第事務局で各委員宛送付するので、何か気づいた点があれば事務局に申し出ていただきたい。また、会議録についての確定は会長に一任いただきたい。

○審議会委員：

異議なし。

○山谷会長：

本年度の審議会については本日をもって終了とする。



